熊日1968.09.20

〝再建計画〟の遂行を

チッソ水俣工場 地元の要望相次ぐ

先に江頭チッソ社長は、同社水俣工場の再建五カ年計画について「手直しによる事業縮小または最悪の場合は工場撤退もありうる」ことを示唆したが、この発言は水俣病問題とからんで地元に大きな影響を与えている。〝チッソの町〟といわれるほど地元にとってはチッソ水俣工場の占める比重は高く、それだけに水俣病の早期解決と再建計画の遂行を望むチッソに対する地元各種団体からの要望が相次いでいる。

ますさる十四日に市各区駐在事務所長会が緊急協議会を開いて、水俣病の被害者救済策と工場再建計画の遂行に関する要望書を徳江チッソ水俣支社長、佐々木工場長に提出するいっぽう橋本市長にも協力方を要望した。

十八日には湯の児観光協会の松永会長ら役員が支社長、工場長あてに、水俣病問題の早期円満解決と工場再建を当初の計画通り遂行してほしいとの要望書を提出。水俣商議所でもこのほど常議員の臨時協議会を開いてチッソに対する水俣病問題と再建計画にともなう要望事項を決議、十九日午前十時から田中会頭、西村、田崎両副会頭、寺田専務理事らが支社長、工場長と会い「水俣病患者に対する積極的な補償問題の解決と、とくに市発展に直接影響する工場再建に努力してほしい」との要望書を提出した。

またチッソ水俣工場の下請け業者でつくっている〝チッソ下請け協力会〟でもすでに対策協議会を開き、近く要望書を提出する予定で、ほかにも各種団体の動きが目立ち、近く出される水俣病に対する国の結論を前に、水俣病問題とからんで工場再建を強く要望する市民の感情は複雑で、今後チッソに対する地元の動きはますます活発になるものと見られる。

これに対しチッソ水俣支社ではこれらの要望を東京本社に伝えることにしている。」